

釣りの科学技術対話 第4章 - 餌

瀬戸内：魚の食性は肉食性、草食性、雑食性の3つに大別されるが、釣りの対象になる大半の魚は肉食性になる。とは言っても、クロダイはスイカも食べるので雑食性とも言えるし、メジナは海草類を好んで食べるので草食性とも言える。

野沢：釣りの対象になる魚の適切な餌とは、対象の魚が住んでいる自然界で常時摂取している生き物と言うことになるのでしょうかね。

瀬戸内：一般的にはその通りだ。例えばヒラメの活餌釣りにおいて、イワシが豊富でイワシを好んで食べている場合、アジやドジョウを用いても釣果は芳しくない。また、キスが豊富になる初夏、キス釣りをやっているのと釣れたキスをヒラメが呑込み、思わぬ大物に大騒ぎすることが良くある。

野沢：同じ対象魚でも土地が変わると、仕掛けや餌は地元の釣宿や漁師に聞くと良く言われますね。

瀬戸内：魚は今まで見慣れない餌に警戒心を持つ場合もあるが、しかし、反対に好奇心もあり、見慣れない動きをするものに飛びつく場合もあると言われている。また、対象魚の生活環境にほとんど存在しない餌でも、オキアミのように摂餌に対する強い刺激物質を持つ餌は、反対に、多くの対象魚に最も効果的な餌になる。

野沢：以前、カワハギ釣りで餌について面白い経験をしました。カワハギ釣りではアサリの剥き餌が定番になっていますが、相模湾早川でカワハギの釣船に乗った時のことです。アオヤギがカワハギの餌として効果的との事前情報により、これを使用したのですが非常に効果的でした。アサリ餌からアオヤギに交換したら急に釣れ始めたり、3本針仕掛けの上下にアサリを付け、真中の針にアオヤギを付けたら、アオヤギの針にばかり釣れていました。また、アオヤギの餌を付ける前では外道はほとんど釣れていなかったのに、アオヤギの餌を付けると大型のアジやサバまで釣れだしました。これに気を良くして、次は早川から50kmも離れていない伊豆半島の稲取でのカワ

ハギ釣りにアオヤギを用意したのですが、これがさっぱりでした。
アオヤギの餌は見向きもされず、もっぱらアサリの餌取ばかりでした。

瀬戸内：私は新しい場所で釣りをする場合、どんなに釣り馴れた対象魚に対しても、仕掛けと餌に関しては地元の情報を事前に仕入れ、それに合った仕掛けと、餌を用意することになっている。それとともに、今まで使って効果的であった仕掛けと餌を用意し釣果を比べることにしている。まあ、大半は地元情報のほうが上であった。このようにして地元の情報、私の経験からまとめた対象魚別の釣餌の一覧を表1に示そう。

表1 対象魚別釣餌一覧

アイナメ	岩イソメ、青イソメ、ゴカイ、小エビ、アサリ身、サンマ身、アオヤギ、エビカニ、ワーム、スピナー
アマダイ	岩イソメ、青イソメ、アカエビ、カワエビ、オキアミ、イカ身
イサキ	青イソメ、オキアミ、イカタン、エビ皮、ウイリー等の疑似餌、コマセ使用
イシモチ	青イソメ、ジャリメ、ゴカイ、イカ身、アサリ身、サンマ身、サバ身
イナダ、ブリ	オキアミ、イカ身、サンマ身、活イワシ、活アジ、ホタルイカ、ビニールベイト等疑似針、潜航板、コマセ使用
ウミタナゴ	イソメ、ジャリメ、オキアミ、エビ、スキングジ、コマセ
カサゴ	イソメ、エビ、アサ身、サンマ身、イカ身、活イワシ、活キビナゴ、ビニールベイト(コシイワシのコマセ使用)
カレイ	岩イソメ、ゴカイ、モエビ、アサリ身、アオヤギ身、バカガイ身、ワーム
カワハギ	イソメ、ゴカイ、エビ身、アサリ身、アオヤギ身
キス	青イソメ、ジャリメ、小エビ身、ヤドカリ身
キダイ	岩イソメ、サンマ身、シコイワシのコマセ
クロソイ	イソメ、ゴカイ、ホタルイカ、ドジョウ、イカタン、イワシ身、サバ身、ビニールベイト
クロダイ	イソメ、ゴカイ、オキアミ、カニ、エビ、カイ身、イワシ身、サナギ
サヨリ	ゴカイ、小エビ、赤ヒゲ、イワシ身、イワシすり身のコマセ
スズキ	青イソメ、活エビ、活イワシ、活ハゼ、活コウナギ、活サツバ、活ドジョウ、タコ身、サバ身、セイゴハゲ、ステングジ
チダイ	青イソメ、エビ、オキアミ、スキン擬餌、アミコマセ ¹
マダイ	イソメ、ゴカイ、アカエビ、オキアミ、ムギイカ、活アジ、活イワシ、活キビナゴ、サンマ身、ザリガニ、コマセ
マアジ	青イソメ、岩イソメ、ゴカイ、イカタン、魚皮、ビニール、赤ビーズ玉、コマセ
ヒラメ	活イワシ、活アジ、活キス、活ハゼ、冷凍サンマ、ステングジ
メジナ	岩イソメ、モエビ、活小魚、カニ、サンマ身、イワシ身、海草、ウイリー等疑似餌、コマセ
メバル	青イソメ、ゴカイ、活小魚、活小エビ、活ドジョウ、サバ身、魚皮、ワーム

野沢：非常に多くの餌が使われていますが、何かの傾向があるのでしょうか？

瀬戸内：魚の生理，生態より魚と餌の関係を科学的に説明することが出来るが，この章においては経験的な魚と餌の関係、つまり、表1のデータを分類することにより議論を進めていこう。

野沢：具体的にはどのようにすれば良いのでしょうか？

瀬戸内：表1の内容を餌別に分類することから始めてみよう。その結果は表2になる。この結果から何かを読み取れるはずだ。

表2 餌の種類別 分類

	環虫類	エビ類	活魚	カニ類	カイ身	イカ身	魚身	コマセ	擬餌A	擬餌B
アイナメ										
アマダイ										
イサキ										
イシモチ										
イナダ, プリ										
ウミタナゴ										
カサゴ										
カレイ										
カワハギ										
キス										
キダイ										
クロソイ										
クロダイ										
サヨリ										
スズキ										
チダイ										
マダイ										
マアジ										
ヒラメ										
メジナ										
メバル										

瀬戸内：擬餌 A とはサビキのようにコマセとともに用いるもので、擬餌 B はルアー、ワームのように釣手により積極的に動きを与える疑似餌。また は私の経験上、最も効果的であった餌を示す。

野沢：活魚餌と擬餌 B の使用がかなり一致していますね。マダイとメジナは活魚を用いていますが擬餌 B は使用されていませんね。

瀬戸内：私はマダイやメジナに活魚を使ったことはない。恐らくかなり大物を狙うときに活魚を使うのだろう。そのような対象であれば擬餌 B が使える可能性はあるだろう。

野沢：活魚餌や擬餌 B を使用する対象魚とは目が良い可能性がありますね。

瀬戸内：そうだね。スズキやメバルは目が良いと言われているし、ブリはカツオ等と同様に視覚中心の魚と言われている。また、同じ種類の魚でもクロダイよりマダイのほうが目が良いと言われている。

野沢：環虫類は大半の魚に対して餌として使用されていますね。

瀬戸内：ほとんど海底で生活しないブリやカツオ等の回遊魚以外の魚にとっては、環虫類は見慣れた生き物と言える。ただ、同じ海底に住むヒラメに用いたとは聞いたことはない。セイゴ釣りのようにイソメを長くたらしめて針に付け、場合によっては数匹掛けにして動きをアピールして使用する場合と、キス、ハゼに対するように短く切って針に付ける場合がある。切ってつける場合、食べやすくし針掛かりしやすいようにする狙いがあるが、環虫類には摂餌の効果的な誘導物質であるアミノ酸がたくさん含まれているため、これが海水に溶け出す効果もある。

野沢：ひとつ面白い傾向を見つけました。それはコマセと擬餌 A の組合せの対象魚としては底魚が含まれていないことです。クロダイやマダイは底近くに生息するが、その行動範囲は広い。それに対してカレイ、アイナメやカサゴの行動範囲は狭いですね。

瀬戸内：目の良い魚でも小魚を餌と認められる距離は最大 10 m ぐらいと言われている。それに対してコマセは遠くからでも魚の臭覚に訴えることが出来る。コマセは行動範囲が広い回遊魚を集めるには効果的だ。擬餌 A にはサビキを用いている場合が多く、活きエビを摸し

ている場合が多いので、対象魚としては生きエビを好物にしている場合が多い。ただ、イサキのように擬餌Aとして針に毛糸を巻いたウイリーが非常に効果的であるが、何故そのような効果的か分からない。恐らく糸の切れ端の動きが効果的であると思うが。

野沢：魚身を餌にしている対象魚が多いですね。イカ、カニ、カイ、エビ、環虫類は常に魚の餌になっているし、また、摂餌の誘因物質であるアミノ酸が多いので餌に適しているのは分かるのですが、魚身の多くは自然界では餌ではないのでしょうか？

瀬戸内：そういう訳ではない。多くの魚は共食いをする。とは言っても、大半の場合、成魚同士ではなく成魚が稚魚を食べるのだが。同類でも稚魚が餌になっているのは大量に卵を産む種類に多い。

野沢：なるほど、サバ、イワシ、サンマ身の餌は良く聞きますが、カレイ、、アイナメ、ヒラメの切り身餌はあまり聞きませんね。

- ・ 文章、E-Mail による当社の承認なしに本資料の転載複製を禁じます。
- ・ 本資料に記載の情報をを使用して、当社もしくは第三者の知的所有権やその他の権利に対する保証、または実施権の許諾を行うものではありません。
- ・ 本資料に記載の情報を使用に起因する第三者所有の権利に係わる問題が発生した場合、当社はその責任を負うものではありませんので、ご了承下さい。